

平成27年度 第3回

三重県伊勢志摩サミット推進本部会議

事項書

日時 平成27年8月7日(金)

9:00~9:20

場所 プレゼンテーションルーム

1. 議題

(1) 2008年北海道洞爺湖サミット視察結果について(5分)【資料1】

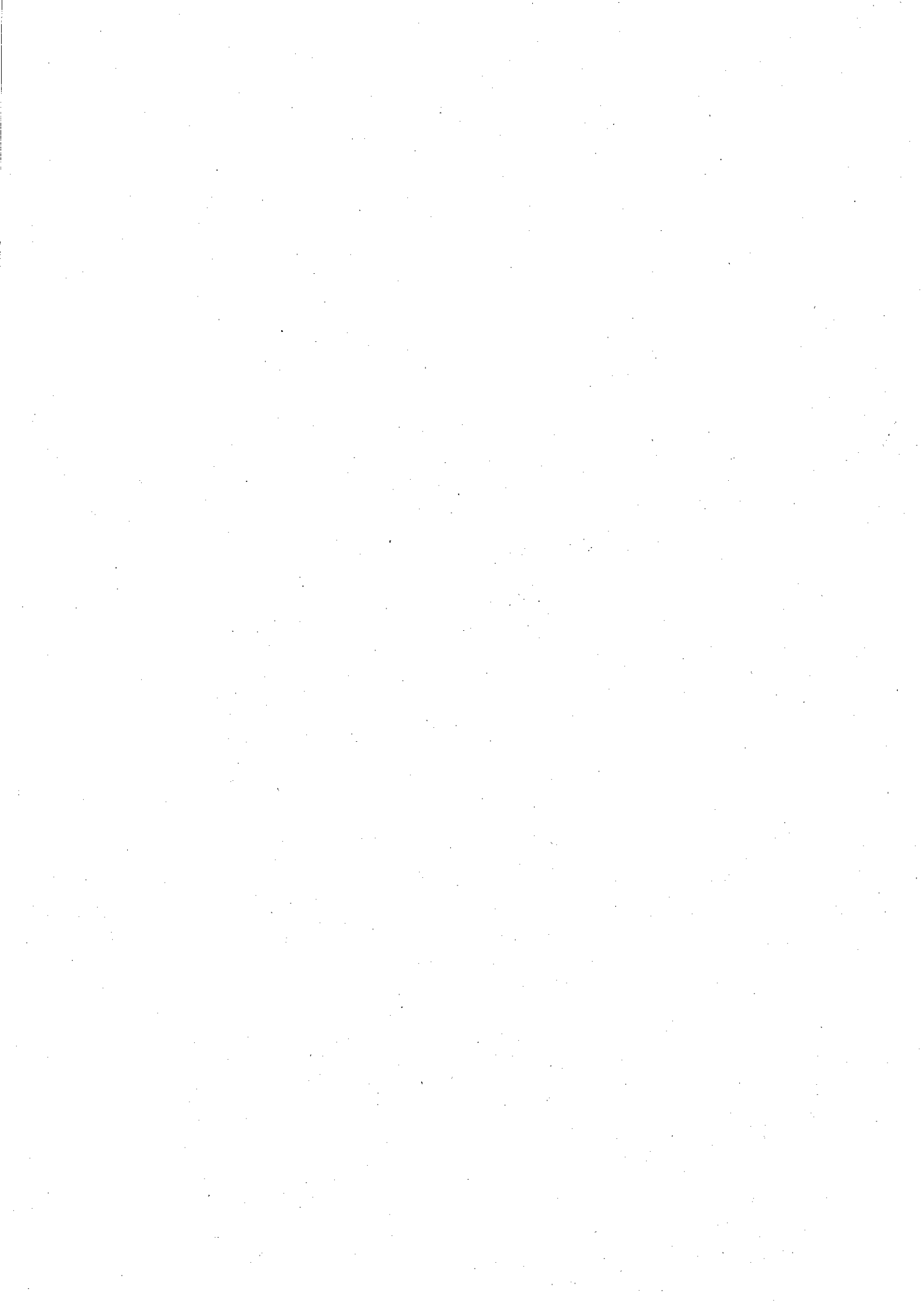
(2) サミット開催に向けた取組について(8分)【資料2-1~2-6】

(3) 各部局の取組状況等について(6分)【資料3-1~3-2】

(4) 全体スケジュールについて(1分)【資料4-1~4-2】

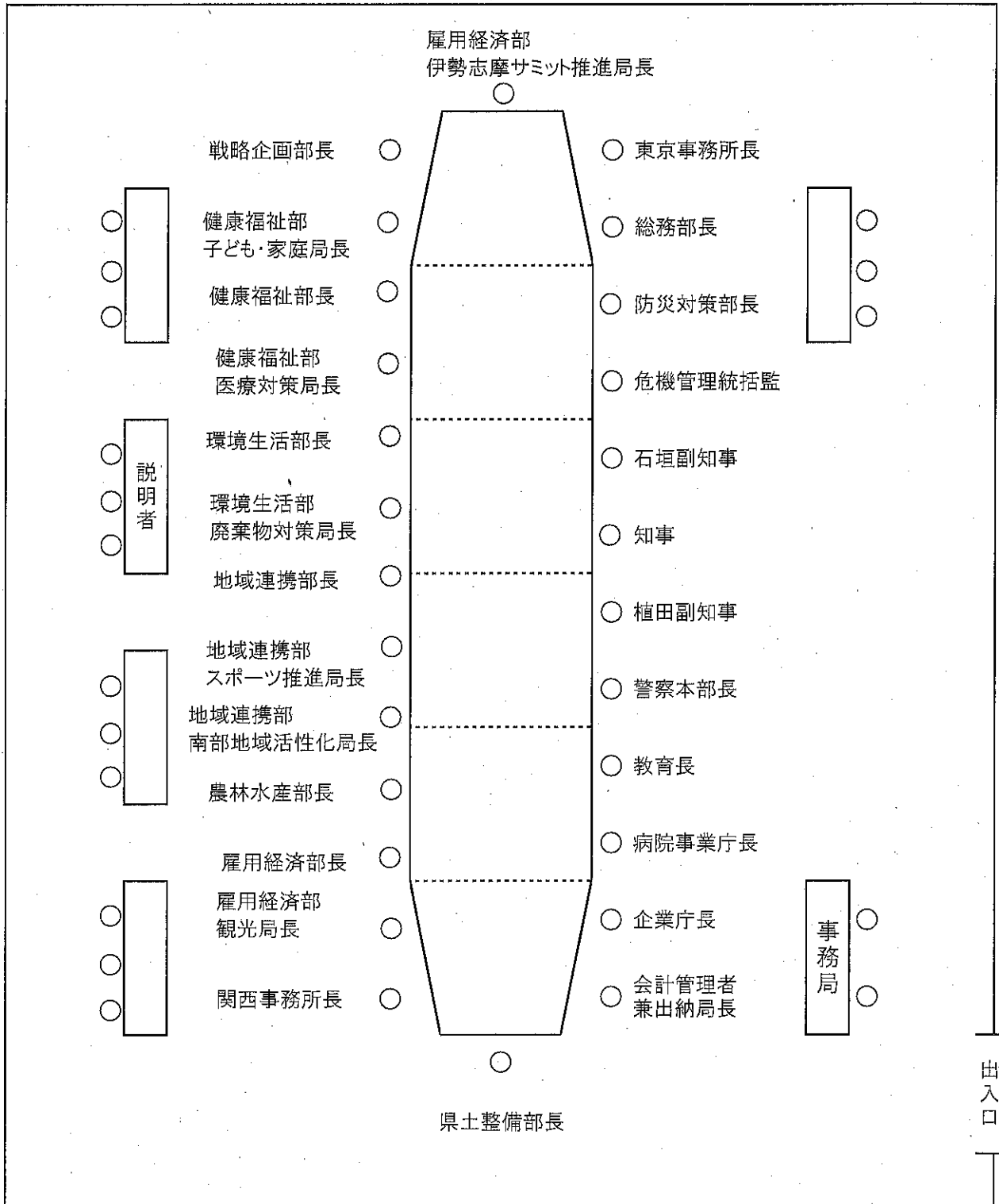
【配付資料】

- ・資料1: 北海道洞爺湖サミット開催地訪問報告
- ・資料2-1: 伊勢志摩サミットに向けた取組の考え方
- ・資料2-2: 伊勢志摩サミット三重県民会議 事業計画(素案)
- ・資料2-3: 県民、企業等からの協力の受入れについて
- ・資料2-4: 宿泊予約センターについて
- ・資料2-5: 第1回伊勢志摩サミットフォーラムを開催します
- ・資料2-6: ジュニアサミットについて
- ・資料3-1: サミットまるごと、次世代自動車で「おもてなし」
- ・資料3-2: 日本を代表する豊富な歴史・伝統文化の魅力を世界に発信
- ・資料4-1: 伊勢志摩サミットに係る今後の会議等のスケジュール(案)
- ・資料4-2: 伊勢志摩サミット開催に向けた今後のスケジュール(粗案)



平成27年度第3回三重県伊勢志摩サミット推進本部会議 座席表

プレゼンテーションルーム





北海道洞爺湖サミット開催地訪問報告

日程：平成27年7月26日（日）、27日（月）

視察先：北海道洞爺湖サミット記念館

ザ・ウィンザーホテル洞爺（首脳会議場）

ルスツリゾート（国際メディアセンター）

面談相手方：

北海道庁 高橋はるみ知事

洞爺湖長 真屋敏春町長

北海道経済連合会 山本邦彦副会長、浜田剛一常務理事

◆北海道洞爺湖サミット記念館

- ・決定前から開催後まで、出来事や取組が時系列に整理され、サミットを端的に知らせる施設として非常に優れていた。
- ・食材に関し、道を挙げ、どこからどういう食材を集めたのかが分かりやすく表示されていた。
- ・サミットで使用された道産材で製作されたテーブルと椅子の展示があった。三重においても、県産材の利用を促進する必要があると感じた。

◆ザ・ウィンザーホテル洞爺

- ・会議場や首脳が宿泊された部屋を視察することで、具体的なイメージがわいた。
- ・食や食材については、粘り強い交渉が必要であるが、様々な提案ができる余地がある。

◆ルスツリゾート（国際メディアセンター）

- ・ロッカールームに設置された北海道情報館は、動線上、メディアの方が必ず通行するところに位置しており、広さだけでなく、設置場所の重要性を改めて認識した。
- ・日本の伝統工芸品等、様々なPRが可能であるということを改めて感じた。

◆高橋知事

- ・サミットの経験が道民の自信に繋がったとの話は、大変勇気づけられ、私どももそういう機会にしていかなければならないと改めて思った。また、道産食材をはじめとして、道全体の取組にしていけることが大事というアドバイスもあり、三重県でも県全体を挙げた取組にできるように努力していきたいと思った。

◆真屋洞爺湖町長

- ・地域ならではの取組を積極的に行ったこと、町民の皆さんに主体的に動いてもらうことを大事にしたこと、不安に思われる部分は情報提供をしっかりと行うことで、最初はとまどいもあったが、段々なくなっていったことなど、経験に基づいた話をいただいた。
- ・サミットを契機に、町民の皆さんが、自分たちでさらに地域を良くしていくんだという思いが強くなって、トライアスロン大会、アニメ・フェスタの開催など、いろんなアクションが生まれてきたことは、地域にとって意味があった。

◆北海道経済連合会

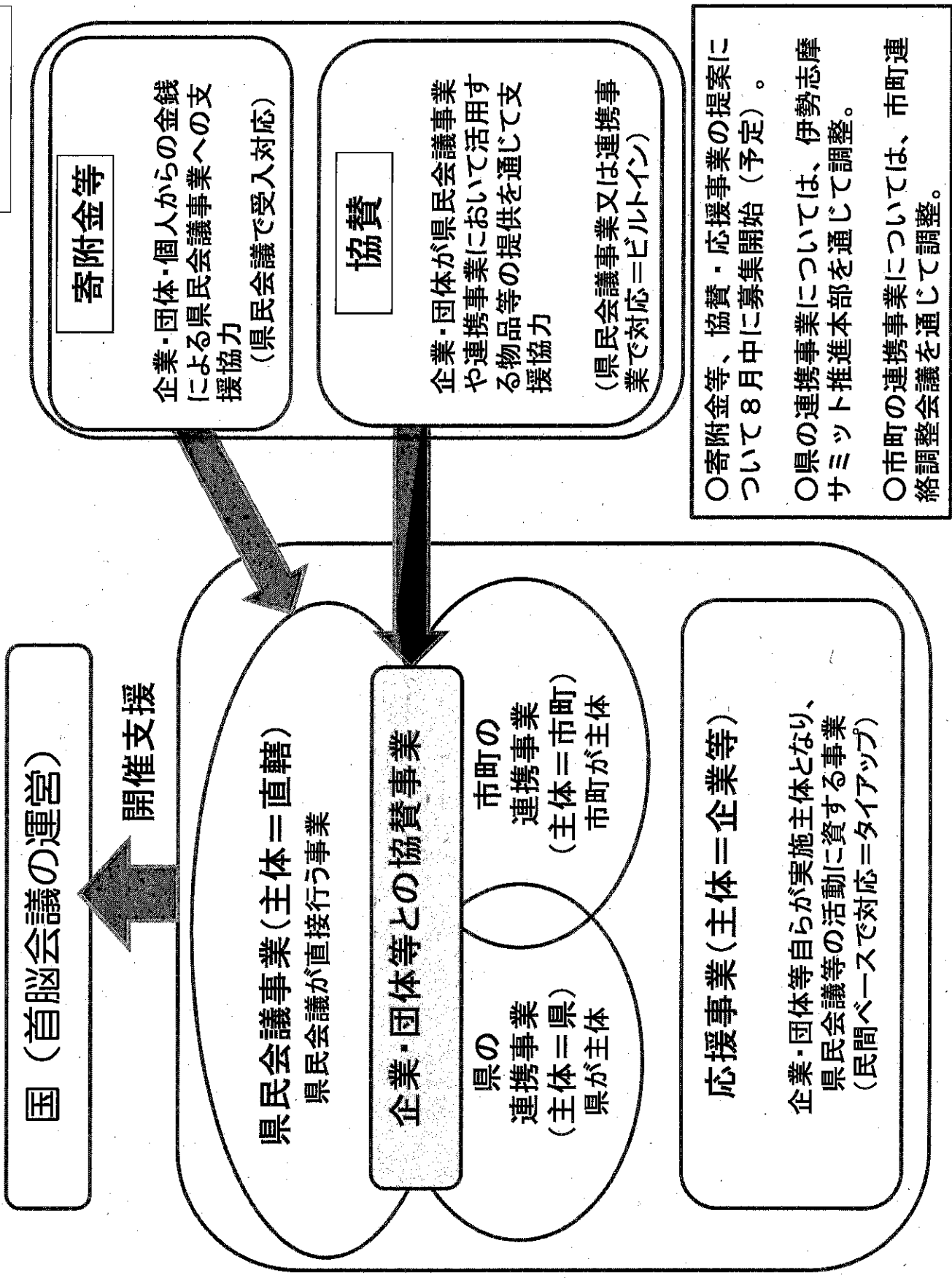
- ・サミットの経験により、例えば観光の情報発信をとってみても、発信の方法が上手になった。世界への発信やアピールを行う際に、何が一番効果的か、どうすればいいのかというのは、サミットでの経験が非常にいい教訓になったし、インバウンドの増加に繋がり、その大切さを学ぶことができた。
- ・何かやっていくことがあれば、すぐできることと、決まらなとできないことを分けて、決まらなとできないことは、ラインナップをきちと揃えて、準備していた。環境、食、観光の3つを柱に事業を行ったが、現在においても、環境展の継続や、食のフード特区、観光のインバウンドなどに繋がっている。

◆総評

- ・海外の開催地を視察したときには具体的になりにくかった、県などを挙げてどういう提案ができるのかとか、地域ならではということ、どういところ出せるのかというのが、かなりクリアに分かった。
- ・PRの仕方ひとつとっても、おもてなしの経験、情報発信の経験、国際会議の経験というのが、次につながるということが分かった。担当した職員や経済界の人たちがしっかり引き継いでいくということが、一過性にせず、長く経験を活かすことになる。テーマを絞って、「観光」、「食」、「環境」など、サミットに關係するテーマに絞った取組をしっかりと続けていくことが大事である。
- ・国の方針などは、ぎりぎりにならないと決まらなことも多いので、国の方針を待たなくてもやれることと決まらなとできないことをしっかりと分けて、すぐにでもできることはどんどんやる、決まらなとできないことも、コンテンツの準備をしっかりとしておくことが大事である。
- ・今回、どこに行っても、道産食材の提案のことをお聞きしたので、県産食材をどうい風に提案していくか、全県挙げた取組をどうしていくかということは、戻ってすぐ整理したい。
- ・住民に対しては、交通規制のインフォメーション機能など、丁寧な情報提供と、可能な限り早めの情報提供を進めていきたいが、洞爺湖町長からも、最初は不安もあったが住民懇話会などを重ねることで不安の解消に繋がったという話があったので、懇話会は準備して、しっかりやっていきたい。警察当局ともよく相談してやっていきたい。

伊勢志摩サミットに向けた取組の考え方

資料 2-1



平成 27 年 8 月 7 日

7 月 27 日県民会議第 1 回部会資料を一部修正

伊勢志摩サミット三重県民会議 事業計画（素案）

1 主要な取組について

(1) 「開催支援」に関すること

- ◆ 宿泊サービスの円滑な提供
 - ・ 集中的に来県する関係者に対し、安定的かつ効率的に宿泊サービスを提供するため、民間事業者の協力により「宿泊予約センター」を設置。
 - ・ 企画提案の募集を 7 月 28 日に締切、8 月上旬に協定書締結予定。
- ◆ 輸送サービスの円滑な提供
 - ・ 関係者の移動を支援するため、バス等の移動手段の運行に係る協力、支援。
- ◆ インフォメーション機能の整備
 - ・ 世界各国からの来県者をおもてなしの心でお迎えするため、空港や駅等において移動支援、観光案内等を行うことを検討。
 - ・ 通訳ボランティアの協力の検討。
- ◆ 警備関係への協力や住民への情報提供
 - ・ サミットに関する情報を、地元関係団体・住民に提供し、サミット開催に対する理解促進と歓迎気運醸成、住民が有する疑問や課題の解決を促進。
 - ・ 地元市町等と調整のうえ、年内及びサミット開催前に住民懇話会を開催予定。
- ◆ 弁当供給体制の整備
 - ・ 警備・消防・医療・現地スタッフ等に対し、安全で安心な食事を大量に継続して供給できる体制を確保するため、弁当供給センターを設置。
 - ・ 三重県産食材の使用も含めて検討中。秋を目途に企画提案を募集予定。
- ◆ 公式行事に伴う歓迎交流
 - ・ 来県する各国首脳に歓迎の意を表するため、空港等において、国等と連携し歓迎行事を実施。
 - ・ 各国首脳等を対象とした歓迎レセプションを開催し、歓迎の意を表明。
 - ・ 子どもたち等が各国首脳と触れ合う機会をつくるため、県民・子どもたちの参加、地元との交流を検討。
- ◆ 配偶者プログラム
 - ・ 三重県の魅力がプログラムに盛り込まれるよう、国と連携し提案や様々な情報提供を実施。
 - ・ 1 泊 2 日の限られた日程の中、テーマ性を持たせた視察先、体験内容を検討し、国に提案。

(2) 「おもてなし」に関すること

◆気運醸成に向けたサミットフォーラムの開催

- ・サミットへの理解を深め、開催気運を醸成するとともに、「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」などを県民とともに考えるサミットフォーラムを開催（第1回 9月5日）（3回程度開催予定）。

◆おもてなし向上研修などの実施

- ・世界各国からの訪問者に満足いただけるおもてなしを行うとともに、国際観光地としてレベルアップしていくため、外国人接客研修の実施や、外国人接客用のハンドブックの制作・配布。

◆環境美化・清掃活動、飾花運動

- ・サミット来訪者をおもてなしの心でお迎えするため、クリーンアップ運動や花いっぱい運動を展開。

◆カウントダウンボード、共通歓迎デザイン等の作成、歓迎装飾等

- ・サミットの開催気運の醸成や来訪者の歓迎のため、装飾や共通デザインを企画。
- ・カウントダウンボードを県民会議事務局内に設置（7月15日）。

(3) 「明日へつなぐ」取組に関すること

◆ジュニアサミット

- ・三重の魅力の発信や明日へつながる交流を残すため、三重県の独自性を生かすとともに、県内高校生が参加者と交流できる機会を可能な限り設定したプランを国へ提案。

◆県内学校、民間団体等による国際理解・国際交流などの展開

- ・明日を担う世代の育成をめざし、県内学校等での国際理解や給食での各国料理紹介や、民間団体等による国際理解・国際交流事業の実施。

(4) 「三重の発信」に関すること

◆シンボルマークの制定

- ・サミット歓迎の象徴とともに、サミットを契機とした三重からのメッセージとして県民会議シンボルマークを制定。

◆ロゴマーク

- ・サミット開催気運の醸成のため、県内学校等に向けて国のロゴマーク募集事業への積極的な協力を依頼。（9月25日募集締切）

◆三重テラス、関西事務所や県外でのイベント等

- ・サミット開催地の全国的な発信のため、2016年伊勢志摩サミット開催決定記念企画（スタンプラリー等）を展開（三重テラス）。

◆ホームページ、SNSでの発信

- ・サミットに向けた情報を効果的に発信するため、ホームページ、Facebook、Twitterを使ったサミット関連情報の継続的な発信。

◆ポスター、リーフレット、チラシ等によるPR

- ・サミット開催の気運醸成のため「伊勢志摩サミット2016」ポスターを作成し、県内外に展開(7月14日)。

◆海外ミッションの機会等を利用したPR

- ・三重県でのサミット開催をアピールするとともに、三重県の知名度向上を図るため、県が主催する海外ミッションにおいてサミットに関するPRを実施。

◆海外プレスツアー等の展開等

- ・サミット開催を活用し、県内各地の魅力を海外に効果的に発信するとともに、開催後につなげるため、海外プレスツアーを複数回実施予定。
- ・海外プレス等に三重県の情報を提供する三重県情報館(仮称)の設置を検討。

県民、企業等からの協力の受入れについて

平成 27 年 8 月 7 日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

1 方針

伊勢志摩サミットの成功に向けて、伊勢志摩サミット三重県民会議（以下「県民会議」という。）の事業実施基本方針に基づく「開催支援」事業、「おもてなし」事業、「明日へつなぐ」事業及び「三重の発信」事業について、三重県に縁のある県内外の力を結集するため、企業・団体等に広く協力を求め、協賛・応援事業に関する提案等を受け入れるとともに寄附金等も募ることとする。

2 概要

(1) 協賛・応援

①内容

- ・協賛 県民会議が直接行う事業、県民会議との連携事業等への物品の提供等
- ・応援 提案者が事業実施主体となって、自主的に行う事業等

②条件

- ・原則として県民会議の財政負担を求めないこと
- ・単なる商品 PR、売名目的等の事業でないこと

(2) 寄附金等

①募集の手法

- ・県内企業や県に関係のある企業等に広く寄附金を募集
- ・ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）の仕組みを活用して広く個人に募集
- ・クラウドファンディング等の手法について有効な事業への活用を検討

②受入の仕組み

- ・県民会議において募集を行い、県が収納

(3) 申込先

- ・所定の書式に必要事項を記載のうえ、県民会議事務局に提出

(4) 広報の手段

- ・リーフレットを作成し、県内外へ広く配布
- ・ホームページ等各種メディアを活用し、広報活動を実施
- ・県人会、市人会、同窓会等、既存のネットワークを活用し、情報発信を実施

3 実施時期

募集開始：8 月中（調整中）

※協賛・応援事業、寄附金等の募集を同時に開始予定

※寄附金等の目標金額 1 億円以上

平成 27 年 8 月 7 日
伊勢志摩サミット三重県民会議

宿泊予約センターについて

1 目的

集中的に来県する関係者に対し、安定的かつ効率的に宿泊サービスを提供するため、民間事業者の協力により「宿泊予約センター」を設置する。

2 取組内容

(1) 宿泊予約センター

○運営事業者（8月上旬協定締結予定）

株式会社 JTB 中部を代表とする 3 社による共同事業体

（構成員：株式会社 JTB 中部、近畿日本ツーリスト株式会社、株式会社日本旅行）

○業務内容

- ・客室の確保及び円滑な宿泊先の提供
- ・インフォメーション機能の整備
- ・宿泊施設との客室の需給調整業務
- ・宿泊施設の補完業務 等

○取扱対象者

各国代表団、日本政府関係者、警備関係者、消防関係者、医療関係者、報道関係者等を想定

○今後の予定（協定締結後、順次実施）

- ・宿泊施設向けの説明会等を実施
- ・各国、国関係機関等の配宿
（県から国関係機関、県関係部局に対し、宿泊見込数等を照会）
- ・報道関係者等の予約受付、配宿

(2) 宿泊施設への依頼

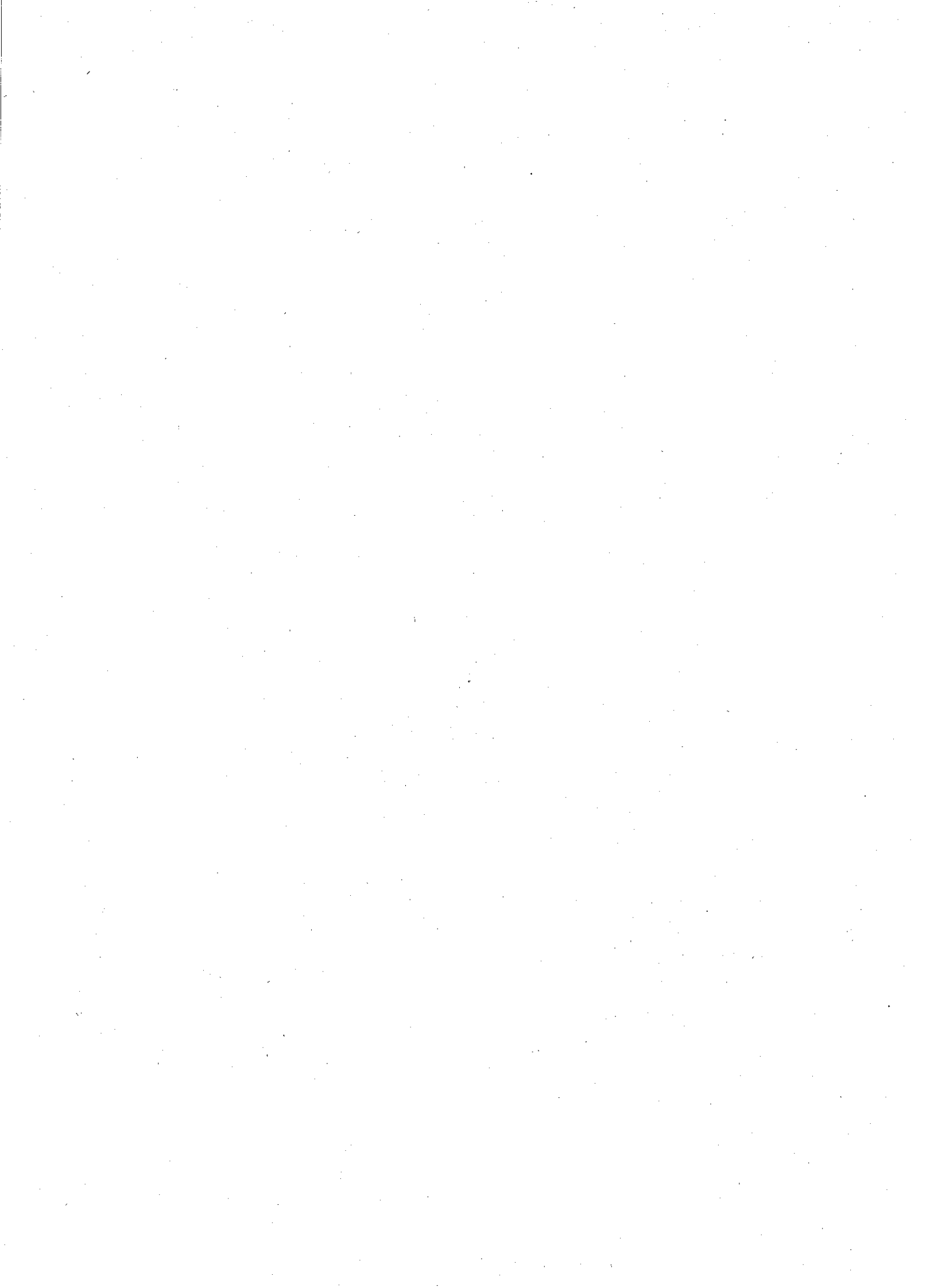
- ・宿泊予約センターの設置に先立ち、宿泊施設の確保のため、以下の期間について新たな宿泊予約を受け付けないよう 7 月 7 日に文書で協力を依頼

依頼先：伊勢志摩地域のすべての宿泊施設（一部保養所等を除く）、亀山・鈴鹿市から伊勢志摩までの交通の便の良い一定規模以上のビジネスホテル

期間：平成 28 年 5 月 9 日（月）から 5 月 28 日（土）（5 月 28 日宿泊分を含む）

対象：各国大使館、マスコミ、一般の方等すべての予約

※宿泊予約センターにおいて需給状況を検討し、9 月末を目途に見直す予定



平成27年8月7日
伊勢志摩サミット三重県民会議

第1回伊勢志摩サミットフォーラムを開催します ～多くの皆様のご参加をお待ちしています～

平成28年5月26日、27日に伊勢志摩サミットが開催されることが決定しました。
県民の皆様とともに、サミットが開催されることの意義や、美しい自然や豊かな文化に恵まれた伊勢志摩の魅力への理解を深め、サミット開催に向けた県民総参加の取り組みについて考えるため、「第1回伊勢志摩サミットフォーラム」を開催します。

記

- 1 日時 平成27年9月5日（土）14時00分～16時15分
（開場13時30分）
- 2 場所 志摩市磯部生涯学習センター 多目的ホール（志摩市磯部町迫間878-9）
- 3 内容
 - (1) 開会
挨拶（三重県知事、志摩市長）
ビデオメッセージ（安倍晋三内閣総理大臣）
 - (2) 講演
演題 伊勢志摩サミットに期待すること（仮）
講師 未定（外務省）
 - (3) トークセッション
スピーカー 山谷吉宏氏（北海道副知事）
ロビン・ハーディング氏（フィナンシャルタイムズ東京支局長）
江崎貴久氏（海島遊民くらぶ代表）
鈴木英敬三重県知事（伊勢志摩サミット三重県民会議会長）
- 4 定員 300名（先着順・事前申込制）
先着300名となり次第、募集を締め切らせていただきます。
- 5 参加費 無料
- 6 申込方法
次のいずれかの方法により、お申し込みください。
 - ①必要事項（お名前、連絡先、来場手段）を記入の上、ファックス
 - ②ホームページ「申請・届出等手続の総合窓口」（下記URLを参照）
パソコン <https://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/dform.do?acs=sf1>
携帯電話 <https://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/iform.do?acs=sf1>
スマートフォン
<https://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/sform.do?acs=sf1>
- 7 申込期限 平成27年8月27日（木）

8 申し込み・問い合わせ先 〒514-0004

津市栄町2-380 HOWAビル津4階

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

(三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局)

事業推進課

電話 059-253-5496

ファックス 059-253-5498

9 主催 伊勢志摩サミット三重県民会議

第1回

伊勢志摩サミットフォーラム

来年5月26・27日に伊勢志摩サミットが開催されます。
県民の皆様とともに、サミットについての理解を深めるため、フォーラムを
開催いたしますので、ぜひ、ご参加ください。

1 開会 (14:00-14:15)

挨拶

(三重県知事、志摩市長)

ビデオメッセージ

(安倍晋三内閣総理大臣)

2 講演 (14:15-14:45)

「伊勢志摩サミットに
期待すること」(仮)

講師 未定(外務省)

3 トークセッション (15:00-16:15)

スピーカー

北海道副知事

山谷 吉宏 氏

元北海道知事政策部北海道洞爺湖サミット推進局長。道の司令塔としてサミットの成功に尽力。

フィナンシャルタイムズ東京支局長

ロビン・ハーディング 氏

日本の大学で修士号を取得し、堪能な日本語を使って取材を行っている。2012年開催のアメリカ・キャンプデービッドサミットを取材。

海島遊民くらぶ代表

江崎貴久 氏

国内外からの来訪者をおもてなしする、エコツアー企画会社代表。地域のキーパーソンで、2010年地域づくり総務大臣賞などを受賞。

伊勢志摩サミット三重県民会議会長

三重県知事

鈴木英敬



平成27年

9/5

土

14:00~16:15

開場 13:30

志摩市磯部生涯学習センター

多目的ホール 志摩市磯部町迫間878-9

参加費

無料

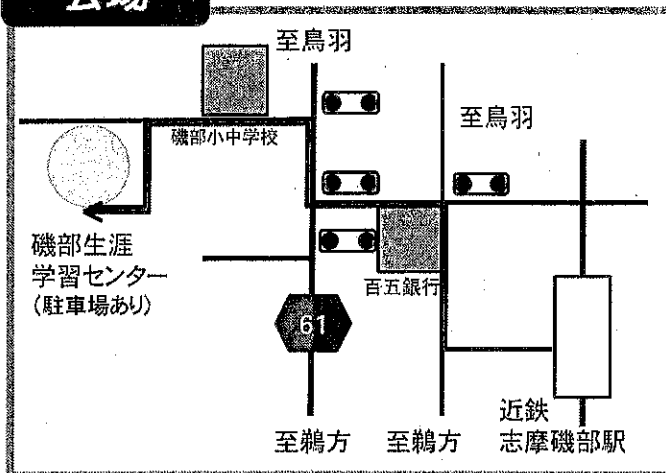
定員

300名(先着順・事前申込制)

主催 伊勢志摩サミット三重県民会議

会場

近鉄志摩磯部駅から徒歩15分



FAX番号 059-253-5498

第1回伊勢志摩サミットフォーラム

参加申込書

ご記入欄		
お名前 参加希望者全員のお名前をご記入下さい。	連絡先 電話番号、FAX番号、Eメールアドレスのいずれかをご記入下さい。	来場手段 車に同乗して来場される場合は、その他に○をしてください。
	TEL: FAX: E-mail:	車・その他
	TEL: FAX: E-mail:	車・その他
	TEL: FAX: E-mail:	車・その他
	TEL: FAX: E-mail:	車・その他
	TEL: FAX: E-mail:	車・その他

※駐車場に限りがございますので、可能な限り公共交通機関をご利用下さい。

※中止又は延期の場合は、県ホームページで発表します。

申し込み・お問い合わせ先

〒514-0004
津市栄町2-380 HOWAビル津4階

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
(三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局)
事業推進課

電話 059-253-5496
ファックス 059-253-5498

先着300名となり次第、募集を締め切らせていただきます。
なお、いただいた個人情報は、フォーラムに関する連絡以外には使用いたしません。

事前申し込みが必要です

お申込み方法

①必要事項(お名前、連絡先、来場手段)を記入の上、ファックスにてお申込み下さい。

②ホームページ「申請・届出等手続の総合窓口」(下記URLを参照)からお申込み下さい。

「申請・届出等手続の総合窓口」

パソコン

<https://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/dform.do?acs=sf1>

携帯電話

<https://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/iform.do?acs=sf1>

スマートフォン

<https://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/sform.do?acs=sf1>

申込期限 平成27年8月27日(木)

平成 27 年 8 月 7 日

伊勢志摩サミット三重県民会議

ジュニアサミットについて

1 ジュニアサミットの概要

サミットの開催にあわせ、2005年から、子どもたち自身が貧困や教育など、子どもに関わる国際問題を子どもたちの視点で話し合うジュニアサミットが開始されました。

サミット参加各国と開発途上国等の代表が参加し、その年のサミットで取り上げられる議題に関するテーマ等について討議し、意見をまとめ、成果文書を作成します。この文書は、各国首脳に提出されます。

※ジュニアサミットの詳細は別添のとおりです。

2 現状

ジュニアサミットは、国が主催するサミットの関連事業であり、開催について現時点では未定です。

8月5日、鈴木知事から、中山泰秀外務副大臣に要望書を渡し、伊勢志摩サミットにあわせ、本県でのジュニアサミット開催を強く要望しました。要望書の主な内容は、以下のとおりです。

- (1) 参加者が、三重県の持つ、日本の原風景ともいえる美しい自然、豊かな伝統・文化など、日本の魅力そのものに触れていただける絶好の機会であること
- (2) 2008年のJ8サミット千歳支笏湖と同様に、ジュニアサミット開催の成果を未来に生かしていきたいこと
- (3) 県内の複数自治体から会場受入の意向があり、県・市町一体となって開催に臨む機運が高まっていること
- (4) 本県で開催決定の折には、三重県ならではの討議テーマの提案や討議に資する現地視察、県内分散型の体験・交流等についての提案、協議を行いたいこと

また、会場受入意向のある6市（四日市市、桑名市、鈴鹿市、名張市、亀山市、熊野市）について紹介を行いました。

3 取組方針

開催が決定した際には、三重県ならではの討議テーマの提案や討議に資する現地視察、県内各地分散型の体験交流等について提案し、実現に向けて国と協議していきます。

【開催日程案のイメージ】

- 1日目 ジュニアサミット参加者 三重県へ到着
- 2日目 開会式及び歓迎行事・視察等（開催地域周辺）
- 3日目 討議テーマに関連した視察・県内高校生等との交流
- 4～6日目 集中討議（夜は地元自治体を中心に歓迎・交流行事を予定）
- 7日目 三重県体験・交流行事
<県内各地に分散し自然・文化・歴史体験と地域交流>
- 8日目 首相への成果文書提出
- 9日目 閉会式、帰国

※下線部が県民会議事業

【参考：J7サミット2015：ドイツの日程】

- 1日目 各国代表チームのベルリン近郊到着
- 2日目 開会式
- 3～5日目 テーマ毎の集中討議
- 6日目 独首相への成果文書の提出
- 7日目 各国大使館訪問、親睦行事
- 8日目 閉会式、修了証授与
- 9日目 帰国

なお、2008年、北海道洞爺湖サミットにおいては、外務省等が主催するJ8サミット千歳支笏湖の他、北海道、北海道教育委員会等主催の子ども達を対象とした環境サミットが開催されました。

【参考：J8サミット千歳支笏湖】

日時：平成20年7月1日～7月10日

主催：外務省、ユニセフ（日本ユニセフ協会を含む）

参加：G8各国より1チーム男女4名、開発途上国（バルバドス、イラク、コートジボワール、キルギス、モンゴル、ネパール、南アフリカ）より1名、計39名

議題：Ⅰ．気候変動
Ⅱ．貧困と開発
Ⅲ．国際保健

【参考：北海道高校生環境サミット】

日時：平成19年10月27日・28日

主催：北海道・北海道地方環境事務所

参加：札幌藻岩高校、遺愛女子高校、岩見沢農業高校、上川高校、斜里高校、苫小牧工業高校、洞爺高校、標茶高校

内容：各校が取り組む環境保全活動の発表
国際協力事業団海外研修生との交流
環境問題についての意見交換

【参考：洞爺湖子ども環境サミット】

日時：平成20年6月22日

主催：北海道教育委員会

参加：豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市の小中学生等

内容：小中学生による基調提言や環境教育の取組発表・意見交換
記念植樹
「環境教育等の取組」や「環境に関する標語」のパネル展示

【参考：専門高校生による環境サミット】

日時：平成20年7月7日

主催：北海道教育委員会

参加：岩見沢農業高校、帯広農業高校、札幌工業高校、苫小牧工業高校、函館水産高校

内容：環境保全技術等の研究成果発表
生徒によるパネルディスカッション

1. ジュニアサミットについて（※ユニセフHPより）

（1）J8サミットについて

世界8カ国の首脳が集まり、様々な国際問題を討議するG8サミット。G8サミットで議論される政治や経済の問題は世界中の子どもたちに大きな影響を与えます。そこで2005年からG8で取り上げられる国際問題を子どもたちの視点で話し合う「Junior 8（ジュニア・エイト）サミット」がスタート。世界を代表する首脳陣に対し、子どもたち自身が貧困や教育などの子供に関わる問題を解決するための提言を行ってきました。

（2）参加者

ユニセフが主催するコンテストを通じて選ばれたG8各国と開発途上国の若者の代表が参加します。

（3）内容

その年のG8で取り上げられる議題、さらにこれまでのG8の議論をふまえて決定されたテーマについて話し合い、意見をまとめ、J8宣言（2007年までは共同声明）を作成します。この宣言文は、G8サミット会期中に全世界に向けて発表されます。

2. これまでの開催事例

- 2005. 7/2～9（イギリス・グレンイーグルス）：C8チルドレンズ・フォーラム
2005【G8：7/6～8：グレンイーグルス】
- 2006. 7/7～18（ロシア・サンクトペテルブルク）：J8サミット2006
【G8：7/15～17：サンクトペテルブルク】
- 2007. 6/2～9（ドイツ・ヴィスマール）：J8サミット2007
【G8：6/6～8：ハイリゲンダム】
- 2008. 7/1～10（日本・北海道千歳市支笏湖）：J8サミット2008
【G8：7/7～9：北海道洞爺湖】
- 2009. 7/4～12（イタリア・ローマ）：J8サミット2009
【G8：7/8～10：ラクイラ】
～2010カナダ・ハンツビルサミットから休止～
- 2015. 5/6～14（ドイツ・ベルリン）：J7ユース・サミット2015
【G7：6/7～8：シュロス・エルマウ】

(参考)J7サミット2015(2015年5月6日～14日、ベルリン)開催状況

1. G7各国代表チーム

- ・各チーム14～18才までの男女6名

※EU6か国（フィンランド、ギリシャ、アイルランド、ポーランド、ポルトガル、スロベニア）、開発途上国5か国（ザンビア、セネガル、エチオピア、南アフリカ、リベリア）の若者も参加。

2. J7サミット概要

- ・ベルリン近郊に集合、3日間英語で討議
- ・テーマについて参加者同士の討論
- ・各テーマの専門家による講義
- ・成果文書「ポジションペーパー」の作成
- ・独首相へ成果文書を提出
- ・G7サミット（6月、ドイツ・エルマウ）の議論への反映

3. J7サミット日程

- 5/6 各国代表チームのベルリン近郊到着
- 5/7 開会式
- 5/8～10 テーマ毎の集中討議
- 5/11 独首相への成果文書の提出
- 5/12 各国大使館訪問、親睦行事
- 5/13 閉会式、修了証授与
- 5/14 帰国

4. J7サミットのテーマ

1. 私たちの地球を守ろう
 - 1-1 海洋環境の保全
 - 1-2 資源の効率的な利用
2. 全ての人に健康な未来を
 - 2-1 薬剤耐性菌とパンデミック
 - 2-2 顧みられない病気
3. 女性や女の子のエンパワーメント
4. 公正な経済
5. 今こそ行動しよう

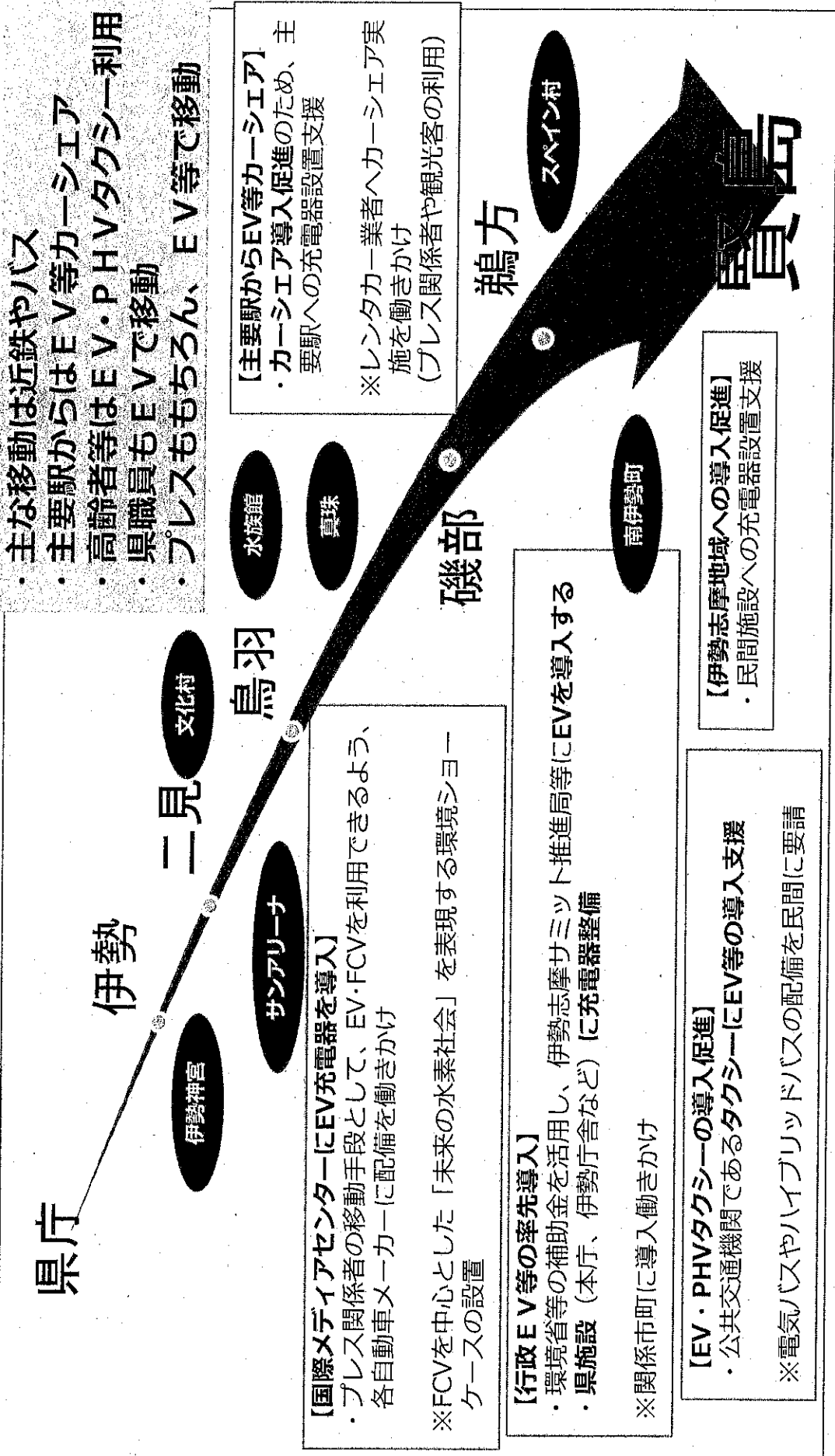
【参考】ジュニアサミット会場要件(2015ドイツ開催実績からの想定)

- ① 100名程度(ジュニアサミット参加者、随行者及び事務局スタッフ)が宿泊・討議等の活動を行える施設があること。
- ② 討議に集中できる環境にあること。
- ③ Wi-Fiが整備されていること。
- ④ リフレッシュのための施設(例:スポーツ施設等)があること。
- ⑤ 参加者が全員参加で集団討議できる会議室があること。
- ⑥ テーマごとに分散して討議できる会議室があること。
- ⑦ 記者会見が行える会場があること。
- ⑧ 事務局スタッフが使用できる会議室があること。
- ⑨ 食事を提供できるレストランがあること。食事はハラール、ベジタリアンへの対応が可能なこと。
- ⑩ 宿泊施設は洋室を基本とし、参加者は2名1室で、個室に風呂が用意されていること。



サミットまると、次世代自動車で「おもてなし」

～ 伊勢志摩に来る人すべてが、EV・FCVで移動 ～



主な移動は近鉄やバス

- ・主要駅からはEV等カーシェア
- ・高齢者等はEV・PHVタクシー利用
- ・県職員もEVで移動
- ・プレスももちろん、EV等で移動

【主要駅からEV等カーシェア】

- ・カーシェア導入促進のため、主要駅への充電器設置支援
- ※レンタカー業者へカーシェア実施を働きかけ
- (プレス関係者や観光客の利用)

水族館
真珠

鳥羽

【国際メディアセンターにEV充電器を導入】

- ・プレス関係者の移動手段として、EV・FCVを利用できるよう、各自動車メーカーに配備を働きかけ
- ※FCVを中心とした「未来の水素社会」を表現する環境ショーケースの設置

磯部

【行政EV等の率先導入】

- ・環境省等の補助金を活用し、伊勢志摩サミット推進局等にEVを導入する
- ・県施設（本庁、伊勢庁舎など）に充電器整備
- ※関係市町に導入働きかけ

【EV・PHVタクシーの導入促進】

- ・公共交通機関であるタクシーにEV等の導入支援
- ※電気バスやハイブリッドバスの配備を民間に要請

【伊勢志摩地域への導入促進】

- ・民間施設への充電器設置支援

鵜方

スペイン村

賢島



日本を代表する豊富な歴史・伝統文化の魅力を世界に発信

～日本の魅力発信に貢献する世界に冠たる文化コンテンツをゆかりの施設で体験～

伊勢志摩
サミット
2016

○基本的な考え方

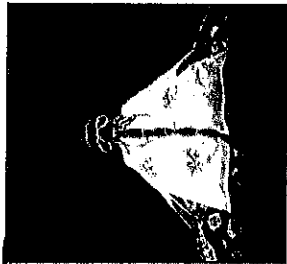
・世界に誇るみえの歴史・伝統文化をゆかりの地で体験 ⇒ 本物の魅力、真髓を世界に発信
・その際、三重の伝統産業やその地のゆかりの品等でおもてなし ⇒ 地域の活性化

◆「女性活躍の聖地」の象徴である「齋王」と「齋宮」

～伊勢神宮に仕えた皇女の祈り～

- ・齋宮歴史博物館 ⇒ 当時の女性活躍を知る
- ・復元建物(西脇殿活用)
- ・いつきのみや歴史体験館 ⇒ 当時の暮らし体験、十二単試着
地元の子どもと貝合わせ等で対戦
発掘体験 など

例えば、御糸織の商品、擬草紙の小物などのお土産

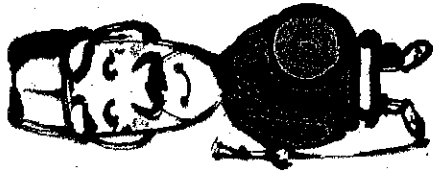


みえの文化の価値・魅力の再認識、磨き上げ

みえの本物の文化の魅力を国内外に発信

歴史・文化を生かした地域の活性化、「地方創生」

販路拡大のチャンス

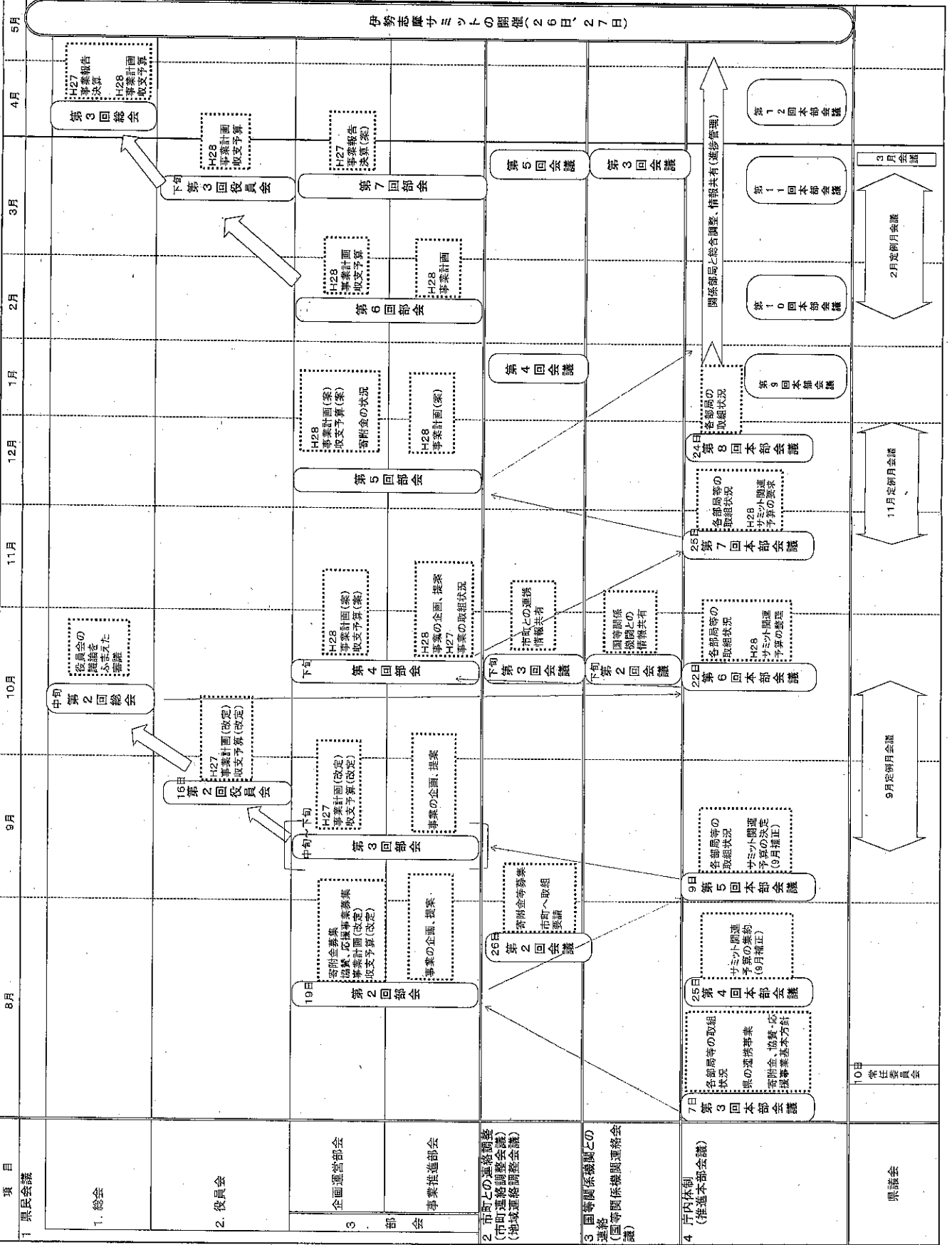


視察と体験

- ◆世界で愛される俳句 ～俳聖芭蕉を生んだみえで侘び、寂びの心～
例えば、那智黒石の硯、鈴鹿墨などの活用
- ◆世界で愛される茶の湯 ～国内3位のお茶の生産高を誇るみえで侘びの心
例えば、伊勢茶、萬古焼、伊賀焼などの活用
- ◆西洋で愛されたジャポニズムのルーツ ～伊勢型紙～
例えば、型紙あかりの作成、伊勢和紙などの活用

機運醸成や県民総参加を目的とした参加者公募の文化プログラムも検討中

伊勢志摩サミットに係る今後の会議等のスケジュール(案)



伊勢志摩サミット開催に向けた今後のスケジュール(粗案)

資料4-2

実施項目	平成27年				平成28年				26日	27日	
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			4月
1. 体制	推進本部 県民会議の開催 ・第3回(7日)、第4回(25日) ・第2回部会(9日)	第2回部会	第2回部会	第2回部会	第2回部会	第2回部会	第2回部会	第2回部会	第2回部会	第2回部会	第2回部会
	国、市町との連絡調整 ・伊勢志摩サミット推進協議会(下旬) ・地域連携調整委員会(下旬)										
2. 協賛・応援、寄付金等	現地事務所										
	道庁等の移動・宿泊、配付者プログラム、贈送、歓迎行事等										
3. 開催支援	国際メディアセンターの設置										
	イベントマネジメント対応、ボランティアの募集・研修										
(安全・安心)	宿泊予約センターの設置										
	弁当供給センターの設置										
4. おもてなし	住民懇話会の開催										
	防災・消防 保健・医療 警備 清掃 施設整備										
5. 明日へつなぐ	サミットフォーラムの開催										
	おもてなし向上研修の実施 環境美化・清掃活動、桜花運動 カウントダウンポイントの設置										
6. 三重の発信	県、市町との連携事業等の実施										
	ジュニアサミットの開催 大勢、民間団体等における国際理解・交流の推進 県内各種イベント等でのPR ホームページ、SNSでの発信 各種メディアでのPR										
7. 海外発信	ポスター、リーフレット、チラシ等によるPR										
	シンボリックマークの作成 海外プレスツアー等の実施										
8. 海外PR	海外ミラソン等の機会を利用したPR										
	三重県情報館(仮称)										

